南砺市文化芸術振興基本計画第３回策定委員会　議事録

１．日　時　　平成２８年３月３日（木）１８：００～

２．場　所　　南砺市役所　福野庁舎　２０１会議室

３．出席者　　伊藤委員長、高田副委員長、古池委員、島添委員

　　　　　　　山邊委員、花嶋委員、島田委員、豊川委員

　　　　　　　（欠席：清原委員、長谷川委員、川合委員）

４．議事録

（伊藤委員長開会あいさつ）

伊藤：　本日は非常に温かい陽気となった。６月に第１回、１２月に第２回の策定委員会が開催され、策定事業が始まって９カ月が経過した。今日が最後の策定委員会となるが画竜点睛ということで皆様からご意見をいただきながらすばらしい計画としたい。

今枝：（第２回策定委員会からの変更点について説明）

伊藤：　事務局の説明を受けてなにかご意見はあるか。

山邊：　文化芸術のジャンルについてだがアニメが創造産業というのがしっくりこない。

　　　SCOTに関しても伝統的でもあり創造的でもある。

伊藤：　この件については第８回のワーキングにおいてもかなり議論されていたようである。文化芸術のとらえ方については様々な意見があるのは事実だが、あまり一般論として議論するよりも、南砺市の文化的特徴を考えるべきではないか。規範性がある文化が各地に様々な魅力を根付かせているが、他方で創造的な文化がその上に重なり、融合することで新たな文化を生み出すことができる。城端のアニメーションはジャンルとしては新しいメディア産業に属するものだが、題材にしているものは、伝統的な祭りや民謡などもあり、融合の例といえる。

古池：　この図で伝えたいことは、創造性の強い文化と規範性の強い文化の融合がダイナミズムを生み出すということだ。これまでも起きてきているし、これからも起こしていかなければならない。

伊藤：　この部分はパブリックコメントでも議論になったようだ。この中に落としこめないものもたくさんあることは確かだ。単にジャンルだけで表現するのでは南砺市の文化の個性は表現できないため、あえて規範性と創造性という書き方をすることでその個性が見えてくるのではないかと思う。

　　　　アニメーションとパロが創造産業とジャンル分けされているところは、かなり迷った部分である。私自身、創造都市、創造産業という言葉については少し違和感を持っている。ただし、メディア芸術や現代文化というのも少し漠然としすぎている。今は、はやりの言葉である創造産業を用いて時代が変われば変えていってもよいのではないか。

山邊：了解した。

伊藤：　表１の南砺の主な文化・芸術一覧においても完全に網羅しているわけではないと思うが、南砺の文化芸術一覧の辞書を作るわけではないので、ご理解いただければと思う。どうしても外せないものがあればぜひ発言していただきたい。

　　　　本計画の特徴といえるのが１９ページからの産業との連携に関する部分だ。この部分について皆様のお考えをお聞きしたい。

古池：　２１ページ③の(a)の部分だが「従来の取り組みを取り払った」より「一体となった」のほうがよいのではないか。

今枝：　「一体となった」という表記に修正する。

伊藤：　このあと作成する実施計画に大きな影響を与えるものについては委員全員からの承認が必要だが、文章の表記程度の微修正においてはこの委員会での変更をもって承認としたい。私が少し残念だったのは「文化芸術と産業の連携体制構築」という項目が削られたことだ。だが２１ページ③の(a)の「南砺幸せなまちづくり創生総合戦略との連携」などの表記に置き換わったものだと認識している。実施計画ではもう少し連携体制が見えるようにしていただきたい。

　　　　今あげていただいた修正点に関してはこのあと印刷等の段階に移る前に修正するという形でよろしいか。

一同：　了承した。

伊藤：　この基本計画の実現性の担保ということで２２ページから推進体制について記載されているがこの部分について事務局から説明をお願いしたい。

今枝：（推進体制について説明）

伊藤：　多くの市ではまず条例をつくり、条例を根拠に基本計画、実施計画を策定するという進め方が主流となっている。南砺市では条例を作る予定はあるのか。

此尾：　現在は条例をつくるところまでは計画していないが、この基本計画、実施計画を推進していくにあたり、地域を巻き込んで市が一体となった文化振興、地域振興をしていきたいと考えている。

伊藤：　条例を作ることにはプラスとマイナスがある。条例を作ることによって計画を進めていくことを保証できるのがプラス面だ。一方、マイナス面は硬直化してしまい、組織が形骸化してしまうことだ。より市民が気軽に入ってきて自由な意見を言えるようにしなければいけない。そのためにも２２ページの「実施計画推進委員会」を「実施計画推進会議」に変更した方が市民にとって入りやすいのではないか。

豊川：　条例の件については、本計画は、新しい形の「結」をテーマとして自発的な力をもって進めていこうとするものである。スタートは条例等の作成を意識せず、推進途中で議論が起きた場合には、その段階で検討するという形がよいのではないか。

伊藤：　本計画は行政主導ではなく市民と協力して推進していくことを重視しているので充分納得した。その他にご意見はあるか。

伊藤：　ご意見が無いようなので前述の細かい修正点を除き、本計画をご承認いただきたいがいかがだろうか。

一同：　承認した。

此尾：　もし文章表記等でご意見があれば事務局までご連絡いただきたい。それでは委員長から市長へ報告をお願いしたい。

（伊藤委員長から田中市長へ報告）

（市長：閉会あいさつ）

市長：　皆様方には「南砺市文化芸術振興基本計画」をこのようにご報告いただき誠に感謝申し上げる。ここまで３回の策定委員会、８回のワーキングが行われたがワーキングが非常に白熱していたと伺っている。伊藤先生、古池先生、島添先生には計画策定に非常にご助力いただいた。厚く御礼申し上げる。来年度から文化・世界遺産課は教育委員会からブランド戦略部に移動することとなる。これからは文化と産業そして観光をいかに結びつけていくかが重要だ。文化や芸術が息づく地域こそがこれからのまちづくりの中枢に位置するのではないかと思う。来年度の実施計画においても委員の皆様にご指導いただきたい。